



中高生とともに差別と闘う

『支え合い助け合う文化』

吉成タダシ



バレーボール部

先日、女子バレーボール部の練習試合を見に行きました。声を出し、懸命にボールに食らいつく姿に、ついつい、「ナイスサーブ!」「ドンマインドゥンマイ!」「つき頑張ろう!」と大声を張り上げて応援していました。

この部、一年生が入るこの春まで、部員は三年生の六人だけでした。昨年の春、部員不足は分かっていたので新入部員集めに必死に奔走したのですが、それでも入部する者は一人もおらず、二年生部員はゼロ。バレーボールは六人の競技ですから、ギリギリの人数で約一年間、ずっと練習を続けてきたわけです。怪我などで六人揃わないときもあり、そんなときは試合どころか練習もままならない状態でした。顧問の先生が入って練習試合をしていたことも。そんなですから、チームプレーを上手くかみ合わせるのには本当に難しかったらと思うます。

また、六人中四人は初心者で、決して運動が得意なようには見えないうタイプの子どもいました。実際、入学当初はサーブを打つてもネットまで届かない。レシーブをしてもどこに行くのか分からない。スパイクなんてもつてのほか。体育館で練習している姿を、「三年間続かなかあ…」と、不安に眺めていたくらいでした。横目で見ていた私がそう感じていたのですから、当の本人達やサポートされていた家族の方々の胸中は複

雑ではなかったかと思えます。そんなあれやこれやをどことなく感じながら三年間見守ってきたつもりでしたので、「最後の大会は、今までやり抜いてきた自分達に誇りをもって、堂々と、最後の最後まで笑顔で闘い抜いてほしい」と思いながら、応援していました。

人権を語り合う中学生交流会

同じ日の午後、人権を語り合う中学生交流会(中学生集会)の実行委員会があり、行って来ました。七月二十八日に開かれる本番に向けて四回実行委員会を開くのですが、その第三回目でした。

今回は七校から集まってきた実行委員の中学生が、自分達でキャッチフレーズを決めたり、ポスター原画の審査をしたりしていきました。話し合いについても、自分達で司会をしながら進めていきます。それぞれが発言していることは納得できるし、よく理解できるのですが、それが上手くまとめきれずに、四苦八苦している様子でした。でも、周りの大人は安易に口出しはしません。それがどれだけ遠回りでも、「子ども達が、子ども達なりに答えを見付け出すまで待つ」というスタンスで見守るようにしています。そんな時間は、決して無駄な時間じゃないと思っています。与えられたものはなかなか身につけません。けど、どんな簡単な答えであっても、自分達で見付け出した答えはきつと尊い

し、価値があるのです。子ども達には、じっくり時間をかけて、そんな経験を積み重ねてほしいなと思っています。

さて、子ども達がどんな話し合いをしたか、私なりにまとめると：差別もいじめも、まず人を知ることが大切。知るためには、語り合わないければ知ることはできない。では語り合えるような教室になっているか。何でも言い合えるような環境づくりができていますか。そんな環境づくりを目指そうとしているからこそ、自分のことを語ってみようと思えるし、人のことも知ることができるようではないか。

こんな話の部分部分をそれぞれが出し合い、それをどうまとめたらいのか、といったところで時間が来てしまいました。また次回のお楽しみにいったところですが、

それにしても子ども達って本当にすごいです。さつき会ったばかりなのに、また二、三回しか会ったことがないのに、すぐに仲良くなり、話し合いを組み立てていきます。その柔軟性には本当に驚かされます。

支え合い助け合う文化

さて、これら二つの話から私が思うこと。それは、人権学習をやり抜いてきた私達だからこそ、中学生活最後の大会を、「全校生徒みんなが互いに応援し合おう」ということです。ややもすると、「自分達だけ自分達の部活だけ」で勝負に挑み

がちになるのですが、そうではなくて、運動部だろうが文化部だろうが、まず自分から観に行く。そして応援をする。そこで、仲間間の懸命な姿から何かを感じることがができるのではないかと思うのです。それを、また自分の力に変えていく。人権学習でつながり合おうとした関係性があれば、それは十分に可能じゃないかと思うのです。

人数が少ないのに、めちゃくちゃ応援が盛り上がり、人数以上の力を出すチームに出くわすことがあります。私もそんな学校に勤めたことがあるのですが、やはり、みんなが互いを応援し合う文化、言い方を変えれば、支え合い助け合う文化が、地域として根づいているのだと思うのです。だからこそ、人数以上の力が発揮できるのではないかと、思います。

「アイツが頑張るから、オレも頑張る!」
「オレも頑張るから、オマエも頑張れ!」

人は関係性の中で、実力以上の力が発揮できたり、十分に発揮できなかったりします。みんなが悔いなく笑顔で、その力が存分に発揮できることを祈り、最後の夏を見守りたいと思います。

部活動も中学生集会も、今年はどうなドラマが繰り広げられるか。そんな子ども達の姿から、私自身がやる気や勇気、力や感動をもらえることに感謝!です。